



🎹 総会報告 🎹

第8回 通常総会

2019年5月11日、松本記念音楽迎賓館にて第8回通常総会が行われました。2018年度の活動報告、2019年度の予算案・事業計画等の各議案が審議され、それぞれ承認されました。

今後も久保田慶一会長のもと、チェンバロとその音楽の普及と発展のため、運営委員を中心に新規事業を含む様々な活動を行ってまいります。協会の活動を充実させるため、今後とも会員の皆様のご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2019年度 運営委員

会長：久保田慶一 副会長：岡田龍之介

運営委員：石川陽子・金澤和子・鴨川華子・重岡麻衣・染田真実子・寺村朋子・戸本和子・中田聖子・流尾真衣
林則子・平野智美・平山絢子・福岡彩・山名朋子・山本庸子・渡邊温子・渡邊順生

第5期 会長選挙について

選挙管理委員会（委員長：伊藤一人）が発足しました。選挙日程等につきましては、ホームページ等でお知らせいたします。選挙権を有する方は、2019年4月1日に会員であった方です。

第5期会長の任期は、2020年5月の総会から2023年5月の総会までです。

会報について

次号から、会報はご登録いただいているメールアドレスに、PDFの添付ファイルにてお届けいたします。

メールアドレスを変更ご希望の方、紙媒体でのお受け取りをご希望の方は、協会までご連絡いただけますよう、よろしくお願いいたします。会報は会員専用ページでも閲覧できます。

☆ 協会の運営に携わりたい方を募集しています。詳細は事務局へお問い合わせください！



チェンバロの日！2019



～ いろいろな調律 ～

新緑の清々しい5月11日（土）、12日（日）、今年も東京都世田谷区にある松本記念音楽迎賓館で開催いたしました。チェンバロを愛する大勢のお客様にお越しいただき、熱気と和気あいあいとした雰囲気の中、無事に終了いたしました。たくさんの方々の御協力、御支援をいただき、一同心より御礼申し上げます。

各イベントについて、参加された方がレポートを書いてくださいました。二日間の様子をどうぞご覧ください。

* 無記名の文章に関してはお名前を掲載しておりません。（敬称略）

●11日（土） Bホール 13:00

【 師弟饗宴 フレスコバルディとフローベルガー】

一】 辰巳 美納子 （調律：ミーントーン）

カラリと晴れた空のもと、初日のコンサートは師弟関係であったフレスコバルディとフローベルガーの曲からスタートです。調律法は辰巳さんもお好きだとおっしゃるミーントーン。客席は満席です。

チェンバロのソロのコンサートでミーントーンが使われることは珍しいようですが、さまざま異なる雰囲気や場面を持つ曲をミーントーンの響きで聞くことができ、贅沢な時間を過ごせました。

終演後も、チェンバロの周りには人が集まり、辰巳さんの解説のもと、響きを味わったり、ショートオクターヴや分割鍵盤を確かめたりするなど、おおいに賑わっていました。（梶）



● 11日(土) Aホール 14:30

【 フランソワ・クーブランとクラヴサン音楽のその後 】 中川 岳 (調律：ダランベール)

「いろいろな調律」をテーマに開催されたチェンバロの日！2番目のコンサートは、ダランベール音律による「フランソワ・クーブランとクラヴサン音楽のその後」、演奏者は中川岳氏でした。

あまり馴染みのない音律のせいか、補足資料も用意されて理解の助けになりました。ダランベール音律とは当時フランスで普通に使われていた音律名で、プログラムはこの不等分音律の特徴を生かした曲で組まれた興味深いものでした。

F.クーブラン、P.フェヴィリエ、J.デュフリ、A.-L.クーブランの4人の作曲家が取り上げられました。「純正」の際立った美しさや、「うなり」により生まれる感情の起伏が自然に立ち上ってきて聴く側に届き、音律というものが曲の背景にあることを改めて認識させられました。氏にとって音律とは「スパイス」のようなものという説明も印象的でした。



★11日(土) Bホール 16:00

【 聴衆を音楽の世界に導くにはどうすべきか 】 久保田 慶一

1日目16時からの講演は、ほぼ満員およそ50名の聴衆を前に、ところどころ笑いが沸き上がる和やかな雰囲気終始しました。「演奏家」「聴衆」という二つの視点から見える演奏会の景色が、「双方向につながる音楽の力」によってど

のように成功に導かれるか、とても分かりやすい具体的な例で示されました。聴けばわかるはずだ、という驕りを戒めつつ、知識を伝えることがあってもそれは聴く体験を上回るものではない、そしてその知識はどのような聴衆かによって十分に考えられた切り口(エントリーポイント)でなければならぬということでした。演奏する側にとっても聴く側にとってもこれからの音楽生活に大きなヒントをもらえる講演でした。(H.A.)



★12日(日) Bホール 13:00

【 鍵盤楽器の発展と調律 】 栗形亜樹子 × 横田誠三 × 藤原一弘 [司会] 大塚直哉

テーマは鍵盤楽器の調律です。座談会は80年代の調律事情に始まり、アリストテレスに遡って調律の語源が「過不足のない、程よく中庸な状態」を指すと説き、また物理的なインハーモニシティの宿命にも触れ、最後に調律は機械的な数値ではなく耳の感覚に拠って行うことが肝要との結論に至りました。

話題は他にも、ヴェルクマイスターやケブラーを例にバロック期の思想の根底に古代から流れる倫理観、バッハ自ら指定した調律の様々な解釈、12平均律ではない平均律などなど、大変豊富でした！音楽の良さを最大限に引き出す調律をサラダドレッシングの調理に例えて生き生きと語るスピーカーは70名超の聴衆を90分間惹きつけてやみませんでした。

(大村桜子)



●12日(日) Aホール 15:00

【 バッハへの誘い 】 家喜 美子 (調律：ヴェルクマイスター第3)

「いろいろな調律」のコンサート、2日目の午後にヴェルクマイスターⅢの調律法を用いた、家喜美子氏による「バッハへの誘い」が開かれました。

Aホールには、チェンバロの音の減衰カーブを大切にするために、部屋の対角線の長い距離を利用してチェンバロが置かれていました。

プログラムはバッハに影響を与えたG.ベームとJ.S.バッハの作品から、F-dur、d-moll、c-mollの組曲やトッカータで、F-durのF-A-Cの和音は純正5度と長3度で、穏やかな澄んだ響きを生み出していました。



J.S.バッハ作曲：フランス組曲第1番 / 平均律クラヴィーア曲集第1巻第4番 / パルティータ第5番、L.クーブラン作曲：組曲ト調、チャイコフスキー作曲：薔薇のアダージオ（連弾）、リゲティ作曲：ハンガリー風パッサカリア、スウェーリンク作曲：半音階的幻想曲、マルシャン作曲：クラヴサン曲集第1巻組曲第1番二短調、マルチェロ作曲・バッハ編曲：協奏曲二短調より第3楽章



★12日（日） Bホール 16:15

【音律という楽譜 調律という演奏】

加屋野 木山

今年の「チェンバロの日！」最後を飾るイベントは、チェンバロ作家の加屋野木山氏による調律の講座でした。夕方にもかかわらず60名近い方々が入られる盛況ぶりに、皆さんの調律への関心の深さを実感しました。加屋野氏ご本人による軽妙なトークで始まった講座は、本題では分かり易い映像を通しての解説に。お話と共に楽器を映した映像があり、耳と目で詳細に体験する事ができました。常々疑問に思っていた点も霧が晴れるように解消されました。

加屋野氏の穏やかな語り口の背景に時折入る鳥の声や、聴衆の目を画面に釘付けにする某有名マスコット犬が和やかな雰囲気を出し、難しく捉えがちな調律を楽しく学べた有意義なひと時でした。（恒見典子、宮野美江子）

* 公開動画 <https://youtu.be/F17Neies4P0>



☆12日（日） Aホール 10:00

【フリーコンサート】

12日10時よりAホールで7名の応募者によるフリーコンサートが開かれました。世代を問わず、チェンバロを愛する方々の真剣な演奏にひきこまれました。客席からは時折感嘆のため息がもれることもあり、温かい拍手が送られていました。プログラムは以下の通りです。

♪ 12日（日） Cホール 14:00

【ペーパークラフトのミニチュアチェンバロを作ろう】 久保田 みずき

館の奥にあるCホールでは、久保田工房のウォルナット(西洋クルミ材)モデルのスピネットが、いつでも弾ける状態で展示され、2日目の午後「ペーパークラフトのミニチュアチェンバロを作ろう」のコーナーが行われました。

座談会とコンサートの合間の僅かな時間に足早に訪れクラフトセットを購入される方が何人もいらっしゃいました。ご自宅に戻られてチェンバロの日！で過ごした時間に想いを馳せながら、きっと自分のオリジナルチェンバロを作られたことでしょう。(T. T.)



♪ レセプションルーム

演奏や講座のない時間に賑わうのがここで、もうおなじみになった3つのコーナーが設けられました。

おなじみの<楽譜とCDショップ>。チェンバロ愛好家向けに程よくセレクトされた品々、[チェンバロの日！]割引のほか特価品も混ざっていて、今年もなかなかの人気でした。



良い香りが立ちのぼる<チェンバロカフェ>は、丁寧にドリップされる専門店に負けない美味しさが評判で、何度も足を運ぶ方も続出して、先ほどの豆とは違って…などなど、こだわりの会話が聞こえる時も。



<チェンバロ協会コーナー>には、本年版のロゴマーク入りオリジナルトートバッグと、会員による出版物（書籍・CD =もちろん2日間限りの特別価格！）が並びました。



<懇親会> 初日の夕方からは、懇親会会場に早変わり。午後5時30分開始、ずらりと並んだイタリア系のごちそうを楽しみながら、懇親会ならではの、旧知の再会や新たな交流、年に1度この時にしか会うことのない面々などなど、にぎやかな会話が弾んでいました。また、ゲストや今回出演の方々の紹介と一言、協会側からは会長と前会長の一言、スタッフの紹介など、和やかに進行。今回創設8年を迎えて、これまでを振り返ると共に、2021年の10周年へ向けての計画なども話題にのぼりました。笑顔の絶えることなく、懇親会は幕を閉じました。



♪ サロン

ちょっと、ひと息、ちょっと、ひと弾き。カーテンの隙間から見える緑が眩しいお部屋には加屋野木山氏製作一段チェンバロ（2018年）が待っていました。いつでも弾ける状態で置いてあり、側には館所有のプレイエル社製モダンチェンバロと大理石のテーブルに革張りのソファー。楽器に触れてメロディを奏でてみたり、ソファーに座ってお喋りしたり、催しの合間、寛ぎの時間が流れていました。（T. T.）



次回予告 チェンバロの日！2020

～ チェンバロ オリンピア ～

2020年5月16日（土）、17日（日）

松本記念音楽迎賓館

例会報告

第 39 回例会（2019 年度第 1 回例会）

【 イギリス ヴァージナル音楽～ 装飾法の新解釈 ～ 】

2019. 6. 9. 桐朋学園大学音楽学部調布キャンパス（東京調布市）

講師：平林朝子

16 世紀後半から 17 世紀前半のイギリスのヴァージナル音楽は、チェンバロ奏者にとって重要なレパートリーの一つである。しかし、それらを演奏する際に誰もが必ずぶつかる問題——斜め線で書かれた装飾記号は何を意味するのか——、この疑問に対する答えを求めべく 32 名が梅雨空のもと桐朋学園調布キャンパスに集まった。講師はアメリカで活躍されているチェンバロ奏者、作曲家の平林朝子氏。今回の例会は氏が論文として発表されたヴァージナル音楽の装飾法について、新しい解釈を約 2 時間の講義の形にまとめたものであった。

他の時代や国のように信頼できる装飾音表がないヴァージナル音楽の手稿譜において、1～4 本の斜め線で表された装飾記号はそれぞれが様々な装飾音を示していて、演奏者が自由に解釈するものであるという考え方が広く支持されてきた。しかし、平林氏はその考え方の矛盾点——なぜヴァージナリストだけが様々な解釈できる装飾記号を使っていたといえるのか、一つの装飾記号をどのように解釈してもよいのならなぜ 4 種類も必要があったのか、記号で示された装飾音と音符で書かれた装飾音がなぜ混在しているのか、など——を洗い出し、具体例を挙げて反論してゆく。音楽を分析すると、同じ音型には同じ装飾法が使われるといった単純なことでも、装飾音は音符で書かれたり記号で書かれたり適当に扱われているといったことでもなく、そのコンテキストによって装飾は細かく使い分けられているのではないかというのである。では、斜め線の装飾記号はどの装飾を表しているのか。平林氏はその条件をいくつか挙げて、1 本の斜め線はモルデント、2 本の斜め線は上からのトリルを表しているという結論にたどり着く。3 本と 4 本の斜め線はヴァージナリストの時代の後半にごく少数使われているのみであるが、これらは長いトリルではないかという。

私が最も印象的だったのは、氏の解釈は大英図書館のアーカイヴに保管されている膨大な数のヴァージナル音楽の手稿譜を参照したことに大きく裏付けられているということであ

る。音楽の分析はもとより、ヴァージナリストたちの楽譜の正確さ、精密さから導き出された結論には力強いものを感じた。

質疑応答では、早いパッセージにおいてもこの結論が適応されるのかといった実際の演奏に即した質問や、同時代の他の国での装飾法との違いについて、さらには、分割装飾への言及などもあり、平林氏の理論的な論法、そして明快な解釈に「ほとんど説得されかかっている」という聴講者からの意見が飛び交った。

最後に個人的な話であるが、私がオランダとベルギーで教わっていた先生方の所でヴァージナル音楽を持っていくと必ず平林氏の論文のことを引き合いに出されていた。ヨーロッパでも広まりつつある新しい解釈を今回直接聞くことができ大変有意義であった。（レポート執筆：崎本麻見）



第 40 回例会（2019 年度第 2 回例会）

【 鍵盤上の作曲実践法としての通奏低音 ～ 18 世紀ドイツ、イタリアの理論より ～ 】

2019. 8. 9. Salon de ぷりんしぱる（大阪）

講師：三島 郁

連日35度を超える最高気温が発表される中、大阪中之島（目の前は国立国際美術館！）を土佐堀川越しに眺められる Salon de ぷりんしぱる において、講演会は行われました。チェンバロ奏者、オルガン奏者、多様な楽器の演奏家など、さまざまな方々が互いに挨拶を交わし、和やかな雰囲気の中で始まりました。

まず、18世紀のドイツ、イタリアの理論は必ず実践と結びついていること、つまり、通奏低音システムが演奏と作曲両方に関わるという当時の音楽創作のあり方を押さえておく必要がある、とお話がありました。その上で鍵盤上の実践という観点から3人の作曲家が取り上げられました。

1、A.スカルラッティ：パルティメント実践

『チェンバロ演奏のためのレッスン、トッカータ集 Lezioni, Toccate d'intavolatura per sonare il cembalo』 (1715)

2、J.S.バッハ：4声の和音進行からの作曲訓練

『通奏低音の原則 Generalbaßregeln』、あるいは『音楽学生のための四声の通奏低音あるいは伴奏の原理と原則 Vorschriften und Grundsätze zum vierstimmigen spielen des General-Bass oder Accompagnement für seine Scholaren in der Music』 (1738)

3、J.D.ハイニヒェン：鍵盤上での調と和音の機能的連結

『作曲における通奏低音 Der Generalbass in der Komposition』 (1728)

譜例を多く見せていただき、さらにそれをサロン備え付けの久保田彰氏製作のフレミッシュチェンバロで弾いてくださいました。当時の文献が回りくどい言い回しのため、日本語に訳されてもどういう意味だか分からないことも多いので助かりました。

特に印象的だったことが、パルティメントのフーガとA.スカルラッティのカンタータへのハイニヒェンの和音付けでした。また、和音の実践的理論である「シエマータ」という言葉を知りました。

パルティメントのフーガはフーガの主題(各声部に現れる)と推移部の主要部分だけが与えられ、その他の部分を即興(作曲)していくというものです。「基本的なハーモニーの枠組みと、彫琢された対位法のテクスチャの間に本質的つながりを与えるものが、パルティメントのレパートリー、とりわけパルティメントのフーガである。」(Gingras 2008) この訓練を繰り返せば、フーガの即興演奏も夢ではないかと思わせてくれる方法です。

A.スカルラッティのカンタータ(Lascia, deh lascia)への和音付けでは、ハイニヒェンが、第2曲レチタティーヴォ(cru-de-leという歌詞が付いているところ)の減7和音は前もって準備されなければならないという記述に対して、受講者からブーイングがでました。「それでは歌詞の持つ意味を表現できないのではないか？」と。A.スカルラッティは数字を付けていないので、どのような和音を意図していたのかわかりませんが、各様式、各時代によって和声付けの趣味も変わっていくことがここから読み

取れるかもしれません。J.S.バッハはハイニヒェンのこの理論書の委託販売を引き受けているそうなので、分厚くて読みにくい文章のようではありますが、譜例と数字を頼りに読み取っていかうと思いました。

シエマータの説明を受けて、私が学生時代、中田喜直先生の実用和声の授業で、ピアノに向かい、毎週(休講もあったけど)ソプラノ(ドレミファソラシド、ドシラソファミレド)に和音をつけて弾いていく練習を交代でさせられたのを思い出しました。今思えば18世紀からの伝統的な作曲法伴奏法の授業だったのかもかもしれません。

パルティメント、シエマータ(スキマータ)についてはYouTube等で検索するといろいろな例が出ているとのことでしたので、早速いくつか見てみました。おすすめです。(レポート執筆：山名朋子)



第41回例会 (2019年度第3回例会)

【通奏低音講座 ～ 中級編 ～】

2019.8.11. 麻布ミュージックプレイス (東京)

講師：郡司和也

ゲスト：辺保陽一 (リコーダー)、トーマス・バエテ (ヴィオラ・ダ・ガンバ)

今回の講座では、ムファットの Regulae Conventuum Partiturae に書いてある内容をピックアップして教えていた

だきました。わかりやすい資料、お話で非常に有意義な講座となりましたが、中でも最後にお話と演奏をしてくださった

「実践例を実際の曲に応用」が特に勉強になりました。資料にはムファットの記述を元に郡司さん自身がシュメルツァーのソナタにリアライゼーションを書き下ろしたものが載せてあり、それを演奏してくださるといふもので、音として聴くことにより、ムファットの意図した演奏効果を直に感じることができました。是非、自分の演奏実践にも生かしていきたいと思えます。
(聴講：西野晟一郎)

昨年(2018年)、ある情報誌に「ムファットの通奏低音」が少し紹介されており、興味を持っていました。今回のレクチャーで配られたプリントには練習課題の実例が多くみられ、その説明もとても参考になりました。内容を丁寧に落ち着いて自分で音出しして、試してみたいと思いました。

< 公開レッスンを受講して >

- 1) 3人一緒に歌い出しは、リコーダーの息の吹きかけ方から意識してタイミングを合わせる。
- 2) 重要ではないと思われる音は右手を加減する。必要、不必要な音の対処の方法を工夫する。
- 3) 同じ和音でもバスに対して反進行したほうがきれい。
- 4) リコーダーが盛り上げていくところは右手の声部数を3個、4個、5個と増やしていくとリコーダーと自然に同調できる。

・・・等のアドバイスをいただきました。ムファットの理論書の応用も有り、郡司先生、トーマス先生には音楽の、また、合わせの本質的なことをご指摘頂き、演奏もして頂き、非常にわかりやすかったです。ありがとうございました。いろんな術(すべ)を試して通奏低音の視野を広げ、アンサンブルを楽しむことができるようになります。

(レッスン受講：大津篤子)

第2部後半のミニレッスンを受講いたしました。曲目はデューパール「組曲 第1番 イ長調」より「オーベルチュア」です。リコーダーは辺保先生、ヴィオラ・ダ・ガンバはバエテ先生が、一緒に演奏してくださいました。お二人の先生と、まずはぶっつけ本番で通奏しました。「高楽器に意識が集中し、ガンバへの集中力が薄かった」と自身が感じたところ、郡司先生は、まずそこを指摘され、そうなった場合の危険性を分かりやすく説明して頂きました。

続いて曲中で、拍感を伝えやすいアルペジオ、リコーダーの音域が下がってきた時のアルペジオ、あおっていききたい時のアルペジオ等々、先生の実演も多く、細かいところまでいろいろアイデアを頂きました。

この例会に参加して、通奏低音への魅力が更に増しました。ありがとうございました。(レッスン受講：小林美紀)



～ 今後の例会 ～

第42回例会(2019年度第4回例会)

「再・再考フレスコバルディ

～ そのインスピレーションの源泉へ ～

【講師】 渡邊 孝(チェンバロ奏者)
 【日時】 2020年1月12日(日) 14:00(開場 13:30)
 【会場】 桐朋学園調布キャンパス 222 教室
 【定員】 50名(要予約)
 【参加費】 日本チェンバロ協会
 [会員・学生会員] 無料
 [サポーター] 1,000円
 一般 3,000円、一般学生 1,000円・桐朋学園関係者無料

第43回例会(2019年度第5回例会)

「みんなで作るフリーコンサート

in 松本記念音楽迎賓館」

【講師】 上園未佳(チェンバロ奏者)
 【日時】 2020年2月16日(日) 14:00-16:00
 【会場】 松本記念音楽迎賓館
 【申込期間】 2020年1月16日(木)～2020年2月9日(日)
 【参加費】 一般 5,000円、学生 3,000円
 日本チェンバロ協会会員・サポーター 1,000円割引
 アンサンブルの場合、共演者一人につき 500円増し
 【入場料】 無料

お問い合わせ・お申し込みは、例会係まで！

メール、または、協会ホームページの「お申し込みフォーム」をご利用ください。

[メール] cembalo_events@yahoo.co.jp [協会ホームページ] <https://japanharpsichordsociety.jimdo.com>

例会の企画案を随時募集中！

協会ホームページの「お問い合わせ」から、「例会について ご予約・お問い合わせ」をご参照ください。



< 更新手続き >

- * お申し出がない限り、毎年自動継続となります。なるべく3～5月中の更新手続き（会費納入）をお願いいたします。
- * 年会費の入金確認ができ次第、新しい会員証を送付いたします。
- * 協会ホームページ内「会員専用ページ」の閲覧に必要なパスワードは、毎年更新しており、その年度の年会費をお振込みくださった方に個別にお知らせしています。
- * 前年度分も未納の方は、あわせてお振込みください。年会費のお支払い状況が不明な方は事務局までお問い合わせください。
- * 例会やイベント会場でも更新手続きを受け付けています。

【年会費】 会員：6,000円（学生：3,000円） サポーター：3,000円 法人・団体会員：10,000円

< 退会手続き >

- * 退会希望の旨を必ず事務局までご一報ください。
- * 年会費の未納は退会手続にはなりませんので、ご注意ください。年会費が未納でも、お申し出のない限り自動継続となります。（ただし、2年間の未納が続くと3年目に自動退会。その場合も未納分の支払い義務は消えません）

< 諸変更について >

- * 連絡先の変更、会員区分の変更がある場合には事務局までご連絡下さい。

< 賛助金の募集 >

より良い協会活動の実現のため、随時、賛助金を受け付けております。
下記口座へお振込みの際は、その旨事務局までご一報お願いいたします。

【賛助金】 会員・学生会員・サポーター：一口 3,000円～ 法人・団体会員：一口 10,000円～

< 年会費・賛助金お振込み先 >

ゆうちょ銀行

名義：日本チェンバロ協会
記号：10090 番号：07246611

※ ゆうちょ銀行以外の金融機関からお振込みされる場合

店名：〇〇八（ゼロゼロハチ） 店番：008
預金種目：普通預金 口座番号：0724661

* 振込用紙の送付は行っておりません。 * 手数料はご負担願います。

- ・年会費のお支払い状況に関するお問い合わせは、事務局までお願いいたします。
- ・最新のメールマガジン（第97号）を受信できていらっしゃらない方は、ご連絡ください。
- ・協会の運営に携わってくださる方を募集しております！詳細は、事務局へお気軽にお問い合わせください。



日本チェンバロ協会
Japan Harpsichord Society

会報第13号 2019年12月1日発行 発行人：久保田慶一
編集：石川陽子、流尾真衣、山本庸子

日本チェンバロ協会事務局

住所：〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1丁目44-4 1階
電話：080-9661-8196（火曜日10～17時に対応）
メール：japan.harpsichord.society.jp@gmail.com
ホームページ：<http://japanharpsichordsociety.jimdo.com>